

2021年2月1日(月)

旧東海道ブラ歩き(2) 青物横丁—鶴見

本年1月21日(木)に日本橋から青物横丁まで家内と歩いたことは既に記したところだが、1月28日(木)及び本日にかけて続きの歩きを決行したので記録に残す。本日の歩数は28800歩あまりだった。

先ず1月28日だが、家から旧東海道の鈴ヶ森刑場跡まで30分ほどで歩き、ここから前回の終着地青物横丁までの短いコースを逆向きに歩き、これにて日本橋から鈴ヶ森まで歩いたこととし、その後大井町まで歩いて娘の家で一休みし、さらに歩いて自宅まで帰った。全体としては結構歩いたが、旧東海道としてはほんのちょっと進んだに過ぎなかった。

本日は朝10時過ぎに前回同様家内と共に自宅を出発、鈴ヶ森刑場跡までいき、ここから東海道旧道歩きを再開(写真1)。ガイドブックを見ながらひたすら進み、広重の「名所江戸百景」にも描かれた梅屋敷につく。このあたりは旧東海道は第1京浜国道となっており、横を走る車が相当うるさい。ここは明治の文人達の日記や短編を読むとよく出てくる場所だが、以前3000坪あった梅園が今は数百坪ほどに減少しており、あまり見るべきものはない。とはいえ梅はそこそこ咲いていた(写真2)。

そこからさらに第1京浜を歩き続け、呑川を渡り六郷神社にいたる。この社殿は源頼朝が造営したとのことで確かに広大ではあるが、特に見るべきものもなく、訪れる人もほとんどいない状況だった。そこから暫く第1京浜を歩き続け、愈々六郷橋で多摩川を越し川崎市に入る。これで日本橋から旧東海道を歩いて東京外に出るとの最初の目標達成(橋の上で川崎側の高層タワーを背景にツーショットをとる。自分で自分を映したのは初めて(写真3)。六郷橋直前から漸く第1京浜と旧東海道が分岐して本来の楽しい歩きとなる。川崎に入って田中本陣宿を通る。ここは江戸時代は大きな建物があつたようだが、今は案内板しか無い。

このあたりで時間は13時半となり、空腹を覚えてきた。吉田さんの東海道中膝栗毛にある、これ以下は無いというまずきの鰻屋だけは避けようと思ったが、そもそもその鰻屋を見落とした。そうこうしているうちに増田屋という蕎麦屋があつたので飛び込み天ざるを頼んだがまあまあでほつとした。ここを14時過ぎに出て市役所通りを突っ切つて市の中心街を歩く。昔川崎の富士見中学校に2年間在籍したことがあること、銀柳街の時計屋の息子が友達だったこともあり、このあたりは歩き回つていたので大変懐かしかった。

さらに旧道を歩くと京急の八丁畷駅のすぐ手前に芭蕉の句碑がある(写真4)。芭蕉はここで弟子達と別れ故郷に帰つたが、51才の若さで没し2度と江戸に戻ることは無かつた。ここから鶴見川までは道が狭くて交通量も多いのでやや緊張しながら歩く。川を渡つた辺り

で一休みしようと思って洒落た喫茶店を探したが、街道沿いにはそのような店は全くない。愈々駄目かと思って横を見ると何と目の前にフランス語の看板が出た店があるではないか。ここでコーヒーとケーキで一休みし、店を出る頃には15時半を過ぎていた。元々気楽な旅でどこまで行けねばならないとの縛りもないので、生麦事件の碑まで行けるかどうかを検索するとなんと45分かかると出た。我々老人夫婦の足では1時間かかるとみて、そうするとそろそろ日暮れになってしまう。そこへ店員が徒歩30分弱とって来た。色々付き合わせてみると店員は生麦事件の現場までの距離、こちらは同事件の碑までの距離を調べていたことが判明。そろそろ疲れたので本日はここまでとし、鶴見駅まで歩いて帰宅した次第。

次回は鶴見駅まで電車で行って横浜まで歩き、そこで旧東海道を離れて元町か南京町、或いはHotel New Grand 辺りでおいしいものでも食べて帰ろうということにした。



写真1 鈴ヶ森刑場跡



写真2 梅屋敷の梅 (右紅梅と左白梅)



写真3 六郷橋の上で (川崎側を展望)



写真4 松尾芭蕉の句碑